

## 編集 後記

第66巻7号には、日常生活におけるリスクの認識から既存データの二次的利用での地域相関研究まで、様々な4題が掲載された。地域在宅高齢者における、転倒恐怖感と日常生活活動の一部を構成する4動作との関係では、転倒恐怖感が、脊柱屈曲動作等の動作困難や、高齢、転倒経験と関係していることが証明された。中学生の津波からの避難意思についての調査では、避難すると答えたのは「自治体から避難指示を聞いた時」や「長い揺れを感じた時」であることがわかった。発達上の課題が「気になる子」の保護者への保育士による支援の実施に関連する要因が明らかになった。これらの意識調査は、高齢者の事故予防、若年者の防災行動の適正化、保育士の保護者支援の促進に大いに役だつ。また、NDBオープンデータを用いた分析においては、都道府県間の平均寿命の格差に関連する危険因子が明らかとなった。本号の掲載論文は、分野としては多岐に渡るが、得られた結果が、そのまま実務に役立てられる「トランスレーショナル」な研究という点で、共通している。観察や介入の記録、研究分析の結果は、公衆衛生や保健医療政策の貴重なエビデンスとして、活用されなければならない。全ての活動を根拠に基づいて実施することに努めるとともに、我が国の公衆衛生活動に関わるエビデンスを系統立ててまとめ、検索可能なデータベースの作成を急ぐ必要があるだろう。(松田智大)

## 次号予告 (第66巻・第8号)

### 特別論文

賛否の分かれる公衆衛生対策に関するディベート：日本公衆衛生学会モニタリング・レポート委員会による聴衆参加型シンポジウム  
……………後藤あや，他

### 原著

妊婦要因と低出生体重児，流産・死産児の関連性：保健師・助産師による母子健康手帳の全例交付と児の出生状況の把握……内藤美智子，他

### 公衆衛生活動報告

福島第一原子力発電所事故による避難指示解除後の自殺死亡率モニタリングと被災自治体と協働した自殺・メンタルヘルス対策の実践  
……………大類真嗣，他

### 資料

発達障害に対する成人の認知および情報源に関する現状……………荒木田美香子，他  
家庭の状況と子の長時間のインターネット使用との関連：『インターネット社会の親子関係に関する意識調査』を用いた分析……加藤承彦，他